

医療に貢献できる臨床検査技師を目指して

瓜生 真記

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

【臨床検査技師を目指したきっかけ】

私が臨床検査技師を目指すきっかけは、看護師である母より「臨床検査技師は医師の判断に大きく影響する正確な検査結果を提供するという医療の基盤となる仕事である」と勧められ、臨床検査技師という仕事に興味を持ち、やりがいを感じたからである。そのなかで最短で臨床検査技師になれる3年制の養成校の中から、全国でも数少ない医学部附属で大学病院が併設され、常に医療の最前線を感じられる環境の本校を選択した。

【学生としての現状】

本校の学生生活は、3年間で臨床検査技師になるために講義、実習、レポートの毎日で思っていた以上に繁忙であった。また2年、3年生時は研究発表会に参加する。グループで約半年かけて調査した内容を発表するが、研究発表をとおして問題点と向き合い解決していく中で研究心と共にチームワークの大切さを学んだ。現在、私は3年生で臨地実習病院に通い、教科書で学んだ測定項目がどのような形でおこなわれているのかを体感している。私は、臨地実習で臨床検査技師として働く先輩方が検査結果から瞬時に患者の病態を推察する姿に圧倒され、学校で学んだ知識がどのように患者さんに反映されるかようやく理解できた。

学校生活の中では、勉強のみでなく積極的に学校行事へ参加した。学園祭では、実行委員として医学科や看護学科の学生との関わりと学園祭の成功へ協力して仕事を行っていくことは、臨床の現場でのチーム医療に通じると感じた。

【医療への貢献】

私は、細胞検査士の先輩方とともに子宮頸がん検診受診の啓発キャンペーンに参加した。一般の人に検診の重要性を知ってもらうことでがんの早期発見ができれば医療に貢献できるのではないかと考え、臨床検査技師になっても引き続きこのような活動を行っていきたい。

また私は、1年生の時から細胞診や組織の標本を観察することが好きであり細胞検査士になりたいと思っている。細胞診でがんを早期発見できれば、患者さんに対して貢献できるのではないかと思う。

【卒業後の私】

私は、本校で培った勉強、チームワークや研究心を生かし、高度な知識や技術をもつ臨床検査技師になりたい。その後、がんの早期発見、患者さんに貢献できる細胞検査士を目指す。

連絡先: 〒830-0011

福岡県久留米市旭町 67

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

電話: 0942-31-7592

学生氏名: 瓜生 真記

教員氏名: 安倍 秀幸